

令和4年度学校評価報告書

令和5年2月20日

北海道えりも高等学校長 村木 宗徳

次のとおり令和4年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- | |
|---|
| (1) 社会で生き抜く力を育む教育活動の推進
(2) 生徒の確かな学力の育成を図るための教育活動の推進
(3) 生命尊重の涵養と自己管理能力を育む教育活動の推進
(4) 生徒一人ひとりの進路実現に向けた教育活動の推進 |
|---|

2 自己評価結果及び学校運営協議会委員評価の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校運営協議会委員の結果
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響からか、PTAレクリエーションは参加者が少なく中止となった、地区別懇談会は実施した。 また、全学年における希望制の三者面談の実施や学校ホームページ、各種便り等の充実により、教育活動を知ってもらうことができた。 新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、従来の学校行事を工夫しながら実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> PTAレクリエーションが実施できなかったことは残念だが、地区別懇談会や三者面談等、保護者と懇談する機会を設けたことや学校ホームページ等において日頃の授業等の様子を積極的に周知したことは評価できる。 感染症対策を徹底し工夫することで、学校祭や従来の学校行事を実施したことは評価できる。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 次年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行することを受けて、従来どおり教育活動を実施していく。また、積極的なPTA活動を目指すとともに、保護者等においても学校ホームページや各種便りの積極的な活用による学校の教育活動の周知を継続する。 	
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修や公開授業の実施を行い、授業改善に努めている。学習評価（観点別学習状況の評価）の改善については教職員全体で共通理解を図り、情報交換会を行った。 えりも町の協力で、9月から一人一台端末の貸与が行われたことで、授業においてクロームブックの積極的な活用ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員が主体的に研修等を実施して、授業の研究をしていることは評価できる。今後はさらに組織的に学校全体で推進してもらいたい。 多様な生徒がいる中、クロームブックの活用等により、個別の学力を向上させていることは評価できる。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領の趣旨を実現させるため、組織的に主体的・対話的で深い学びの実現や個別最適な学びを推進していく。 	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 担任や生徒指導部、管理職間での報告・連絡・相談体制の徹底や積極的な面談や家庭訪問等の取組が未然防止につながっており、いじめの認知件数は0件であった。 今年度は生徒指導事故が2件発生した。迅速な対応で該当生徒はしっかりと反省することができた。これからも、未然防止に向けた取組を保護者等や地域と一体になって進めていく。 基本的な生活習慣が身に付いていない状況で入学してくる生徒がいる。保護者と連携した個別の指導を継続して実施していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめについては日頃の積極的な面談等の成果が表れていることは評価できる。 生徒指導事故において迅速な対応や、丁寧な指導の成果が表れているのは評価できる。 基本的な生活習慣については、高校入学前の段階からの指導が大切であり、中学校等と連携した取組が必要である。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 中学校との連携を一層充実させるため中高合同会議等において、中学校と高等学校間での継続した生徒指導の在り方について、教員間で協議していく必要がある。 	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 高校生による小・中学生への進路講話や中高合同の進路説明会など、小中高の学びの連続性を重視したキャリア教育及び多様な進路希望に対応した教育課程の編成や個別指導、課外講習を実施している。進学・就職等の進路実現に向けた手厚い講習等を行っている。 検定については漢字検定、英語能力検定の取得率が低かったため、次年度は各教科で取得率を上げたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導については、小中高が連携したキャリア教育などにより進路決定率100%を目指し、国公立大学への複数進学等、大きな成果をあげたことは大変評価できる。今後は大学等に進学した生徒が就職後にえりも町へ貢献できるように指導してもらいたい。 検定についても成果を残しており、今後も継続した取組を進めてほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 進路については、小中高の学びの連続性を重視したキャリア教育及び個に対応した指導を一層充実させ、えりも町の産業について考えること等をおして、広い職業観を身に付けさせる指導を推進していく。 	

公表方法	ホームページ等で公表する。
------	---------------

3 添付資料（評価は4段階評価となっている。）
 令和4年度 北海道えりも高等学校保護者等アンケート結果